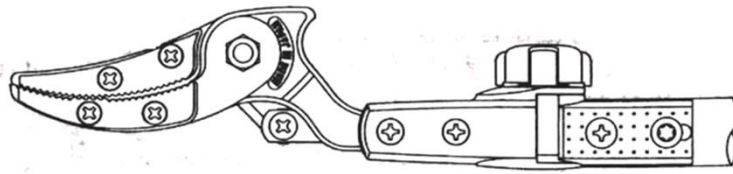


EA650AX-31
(採取型 伸縮式高枝ハサミ)

- 刃材質 高炭素刃物鋼
- グリップ部材質 アルミダイカスト+エラストマー
- 全長 1.8m~3m
- 刃長 60mm
- 重量 1310g
- 刃先の向きは30度ずつ5段階調節可能。
- グリップ部は250度回転(無段階)し、枝の向きに併せて切断可能。
- 鋸付属 ○ つかみ刃仕様

① 採取タイプ



果実、枝を確実につかむ採取タイプ。毛虫・養虫やトゲに触れずに安全に作業できます。
(採取部《ツカミ》は取り外すことができます)

- 高炭素刃物鋼 ●鍛造刃 ●ハードクローム仕上げ ●打合いクッション
- アルミダイカスト+エラストマーグリップ ●刃カバー ●替刃式



※つかみ刃を取り外した状態で直径12mmまでカット可能。

ご使用方法

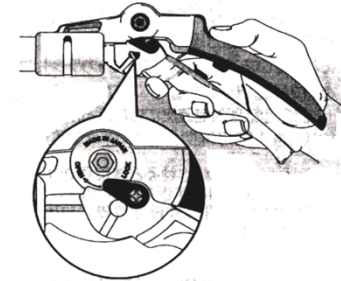
1.安全で作業しやすい服装を着用する。

- 長袖、長ズボン、手袋を着用し、エプロンなど汚れても気にならないものを着用してください。
- 保護メガネを着用してください。

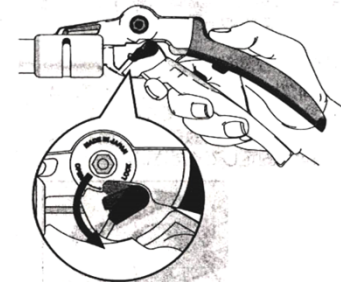


2.基本的な使い方

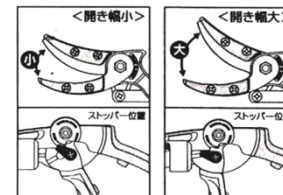
① 操作グリップ部のストッパーがかかっているか確認してから、刃カバーを取り外してください。



② グリップ部を握り、ストッパーをはずして、ゆっくりとレバーを開いてください。

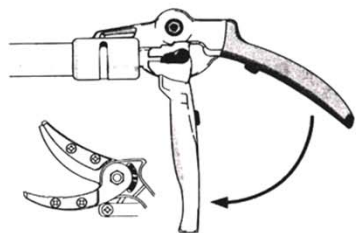


※切断する太さに合わせて、刃の開き幅を2段階に調節できます。

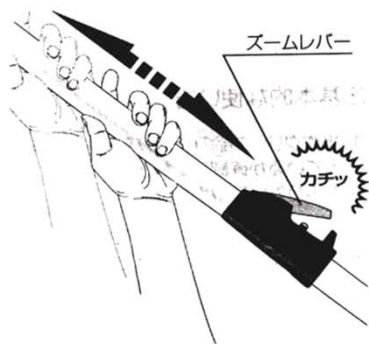


ご使用方法

- ③ レバーと刃部は連動しますので、レバーを開閉させ、刃が開閉するか確認してください。

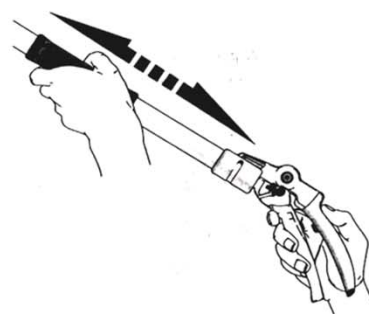


- ④ バイブ長さの調節は、元パイプのズームレバーで行います。ズームレバーを握ったままで、パイプを伸縮させます。連結位置の手前で一度止め、ズームレバーをはなし、ゆっくり動かして連結させてください。3段もしくは5段階伸縮になっています。所定の位置で「カチッ」という音とともにパイプがつかまります。(内部の連結部材を確実につなげるため、レバーを1、2度開閉させてください。)



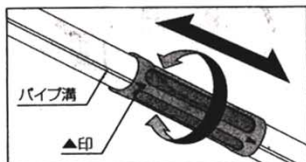
※先パイプを伸縮させるときに引き出しすぎたり、縮めすぎないようにしてください。無理な伸縮は故障の原因となります。

- ⑤ 元パイプの中間グリップを身長に合わせて、安定した体勢で作業できるように、好みの位置に動かし、重量バランスを取ってください。



中間グリップ調節方法

- ① 中間グリップの▲印を、パイプの溝に合うよう回転させてください。
- ② 上下に動かし、お好みの位置で軽くひねり、固定してください。



ご使用方法

- ⑥ 刃部は、手元で向きをかえることができます。最大250度回転できるので、枝の向きに合わせて回転してください。



- ⑦ 準備が整えば、目標物(切りたい枝などを)を挟んで、切断してください。鋭く切断でき、果実、枝などを採取部(ツカミ)でつかむことができます。

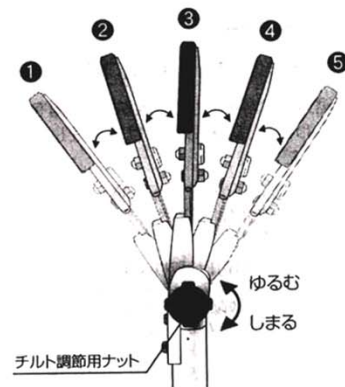
※果実や枝をつかむ場合は、つかみたいものの方へ採取部(ツカミ)を向けてください。

※採取部(ツカミ)があるのは
No.160ZTR-2.0-3D
No.160ZTR-3.0-5D
No.190ZTR-2.1-3D
No.190ZTR-3.1-5Dです。



3.チルト部の調節方法

- ① チルト調節用ナットを約1回転、反時計回りにゆるめます。
- ② 刃先の向きは左右に最大30°ずつ5段階に振ることができます。用途に合わせて、お好みの位置に調節してください。
- ③ チルト調節用ナットを時計回りに回転させて、しっかりと締めます。

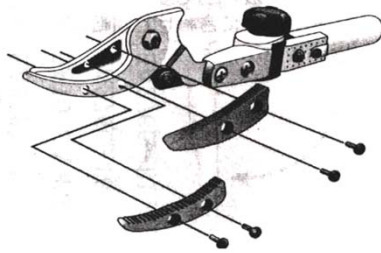


ご使用方法

4. 太い枝を切るときは、採取部（ツカミ）を取り外してご使用ください。

- 太い枝（目安として、生木でφ8～φ15mmまで）を切る時には、採取部（ツカミ）がつかんでしまうので、採取部をはずしてご使用ください。

※はずした採取部（ツカミ）とネジは、なくさないよう注意してください。



5. 鋏では切れない太い枝は、付属の鋸を取り付けてご使用ください。

- 目安として、φ15mm以上の太い枝は、付属の鋸を取り付けて切断してください。

※取り付けの際は、必ずグリップ部のストッパーをかけてから行ってください。

※切断する際は、パイプを接続させた状態でご使用ください。接続させていない場合は、パイプが伸縮してしまい、切ることができません。



鋸刃取り付け方法

① 鋸刃取り付けネジをはずしてください。

② 鋸刃をスライドさせて入れ、穴位置を合わせて、鋸刃取り付けネジをしめてください。

※鋸刃をご使用にならない時は、取り付けネジを本体に取り付けておくなどし、なくさないようにしてください。

※鋸刃の取り付け、取りはずしにはチルト部取り付けネジをはずす必要はありません。故障の原因となりますので、絶対にはずさないでください。

